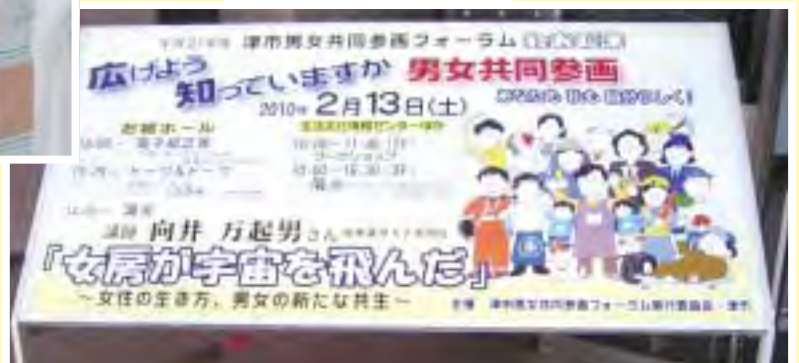


つばさ

～男女が支えあい、いきいきと暮らせるまちをめざして～



▲香良洲漁協女性部長 中西富士子さん



▲2月13日津市男女共同参画フォーラム わあむ津開催

- 【主な内容】
- ◇ 津市男女共同参画フォーラム わあむ津
 - ◇ 女性や子どもに対する暴力防止セミナー
 - ◇ まちを元気にする男女(なかま)たち
～第6回：香良洲漁協女性部長 中西富士子さん
 - ◇ 「男女共同参画に関する市民意識調査〈報告書〉」
に見る津市の現状(その4)
 - ◇ 父親を楽しもう ◇ 日本で女性二番目の医学博士 井出ひろ
 - ◇ ぶらりライブラリー(安濃図書館)

NO.8

2010.3

◆ つばさ各号は、下記のホームページで閲覧できます。

<http://www.info.city.tsu.mie.jp/modules/danjokyodosankakushitsu/article.php?articleid=1>

『つばさ』

「誰もが自由な心で生きられる社会を思い、男女共同参画社会の実現に向かって飛躍していきたい」という願いを込め、その力となる「翼=つばさ」を象徴しています。

津市

“わあむ津”

当日の会場の様子を
一部レポートします。

広げよう 知っていますか
男女共同参画
あなたも私も自分らしく！

2Fワークショップ団体レポート

天花寺奈々子：ズボラママの布
おむつ育児とおむつなし育児。
多くのママたちが熱心に耳を
傾けていました。



男の料理教室
「ひろみ会」

出口 治

ちょいワルおやじの会

ちょいワルおやじの会：竹ぼっくりや
竹とんぼ、また子どもが
入れる大きなシャボン玉
など、子どもも大人も楽
しみました。



天花寺奈々子

みえユーモア
発明研究会

世界平和女性連合
三重第一連合会

津アイリス

男女共同参画
の食育

津アイリス：「地域で認知症を考え
る」認知症の方の介
護体験を聞き、参加
者で話し合いを持ち
ました。



今年のホールイベント

今年もフォーラム実行委員会
による**男女共同参画推進紙芝居**
が披露されました。この紙芝居
は好評で、今回は、出前授業を
受けた小学生の
感想文発表も
行われました。



“トーク&トーク”「自分らしく生きる」

「努力して結果を出せば、
一般採用の女性でも管
理職になりました。」
垣本美和さん：建設会
社取締役経理部長

「この地域を何とかした
い。みんな同じ思いで
したが、最初の一步を
踏み出したのが私です。」
久保俊子さん：白
山町大発苑自治会長

「会社が女性の能力を
正に評価するシス
テムがあります。」
石阪督規さん：コー
ディネーター

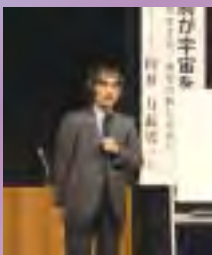
「妻の心に寄り添うよう
になって初めて、妻を
愛おしいと思うよう
になりました。」白瀬守
一さん：妻を6年介護
している夫



「家事・育児は臨機応変。
でもその経験が仕事にも
生きます。」近正樹さん：育
児休業を取ったお父さん

向井万起男さんの講演

「女房が宇宙を飛んだ～女性の生き方・男女の新たな共生～」
いろいろな夫婦・家族があって当たり前と思えるようになりました。
また向井さん独特のユーモアはヒューマニティに通じるのではと感じました。



2010年2月13日（土）、津リージョンプラザにて津市男女共同参画フォーラムが開催されました。今回は展示・ワークショップ参加団体26（個人参加を含む）とほぼ倍増。“参加よりも参画を”が、より鮮明になりました。来場者も市内外より延べ979人あり、充実したフォーラムとなりました。

3F展示団体レポート

三重大学女性研究者支援室：「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」を合言葉に、理系女性研究者・学生支援、女子高生の理系分野選択支援など、取り組みが進められています。



答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会：

パネル展示、手作り人形ブローチの教室や販売が人気でした。



三重大学女性研究者支援室

男女共同参画行政相談所

三重県男女共同参画・NPO室

三重県男女共同参画センターフレンテみえ

みえウィメンズプラン

答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会

Agriロマン津

無名針花

津手づくり絵本の会

津友の会



Agriロマン津：地産地消や食育推進活動の紹介。農村女性起業の地元産食材を活用した鶏ご飯の販売も好評でした。

三重労働局雇用均等室

津市フォーラム実行委員会わあむ津

農村女性アドバイザー

南が丘ふれあい元気広場

TSU青桐

新日本婦人の会津支部

小学校児童出前紙芝居の感想

子育て応援隊

エコシティ津ネットワーク

藤水地区環境を考える会

子育て応援隊：トイレマップが完成。市内各施設のトイレが、ママにもそしてパパにも（！）使いやすくてできているか。渾身の調査結果です。



藤水地区環境を考える会：来場者にボカシ作りや廃油石鹸作りを体験してもらうことによって、ゴミの減量と廃油の利用を訴えました。



女性や子どもに対する暴力防止セミナーを開催しました。

11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせ、11月19日高茶屋市民センターで「ドメスティック・バイオレンス（DV）が子どもにもたらすもの」をテーマに、愛知県立大学文学部の須藤八千代教授を講師に迎え、女性や子どもに対する暴力防止セミナーを開催しました。

家庭内で起こる犯罪の影には、過去のDVやDV被害者の子どもであった経験が影響していることが多く、この連鎖を断ち切ることの大切さなど、体験に基づいた講演を聞かせていただきました。

※ DVとは、親密な関係にある男女間でふるわれる暴力です。力によって支配するという社会意識が影響していると指摘されています。また、DVの暴力の種類には、身体的（殴るなど）・精神的（暴言など）・性的（強要など）・経済的（生活費を渡さないなど）・社会的（友人関係の制限や行動の監視など）暴力があります。



まちを元気にする男女(なかま)たち

第6回 中西 富士子さん



～アイデアの実現には、 仲間の協力～

中西富士なかにし ふじこさんは香良洲町在住。香良洲漁協女性部長はじめ、三重県漁協女性部連合会長、また全国漁協女性部連絡協議会の理事として活躍中です。けれどもその活動は、漁港の清掃という小さなきっかけから始まりました。身の回りや地域の気づきを活動のアイデアに、仲間の協力を得て、一步一步漁業社会の女性の地位向上に取り組んできた中西さん。彼女の元気の源をお伝えします。

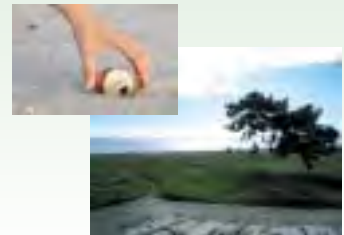
きっかけは漁港の清掃から

組合に従うだけの女性部でいいの？

2002年、香良洲漁協女性部の部長を引き受けた時、活動は停滞し、組合に従うだけの女性部でした。これではいけないとあたりを見まわした時、目に付いたのが漁港の汚さでした。さっそく組合長に直談判し、女性部で漁港の清掃活動から始めました。最初は女性たち5～6人でゴミ拾いから。そのうち男性も協力してくれるようになり、漁港がきれいになっていきました。

盆踊りを復活させる

20年ほど途絶えていた盆踊りを、女性部を中心として復活させました。今年で7年目になります。100人以上の人が参加してくれ、大成功を収めました。盆踊りといった行事は、地域の老若男女が一体になれるもので、復活させてよかったと思います。



漁村女性アドバイザーとの連携

県内漁業女性・農山漁村女性との交流

県内の漁村女性アドバイザーと県漁協女性部が交流し、情報紙づくりなど互いに連携していこうと意見がまとまりました。また県内漁協女性部が海区ごとに交流、料理研究や料理講習を行っています。

漁業女性だけでなく、県内では農山漁村のつどいも毎年開催し、農業、酪農・畜産業、林業などの女性とも交流しています。2007年には香良洲漁協女性部の取り組みを代表で全国で発表しました。

香良洲の地域でも連携を

県内の他の漁業地域では、漁協女性部と婦人会、また農業女性が一体となったり連携したりしている例がありますが、香良洲も一緒に活動できることを希望しています。

漁村女性アドバイザーとは？

県が認定し、女性漁業者やその組織の育成、漁村女性の生活や社会的地位向上などの活動を実践する女性。三重県では2008年度で15名の漁村女性アドバイザーが活躍しています。



バンチョ貝を見捨てず佃煮に

香良洲漁協女性部の自慢料理は

バンチョ貝（ツメタガイ）はアサリの天敵で、よその漁村では嫌われ者、都会の人でもあまり知りませんが、香良洲の人は昔から食べてきました。このバンチョ貝を佃煮にして、全国漁村女性加工サミットに出品したところ、好評でした。香良洲小学校の4年生の授業でも、バンチョとアサリの串揚げをしましたが、これも大人気。また、アサリ飯、サワラ飯などが得意な部員もいます。

海難遺児のチャリティへ

こうした伝統食やアイデア料理は、他地域の漁協女性部と交流するほか、海難遺児のチャリティ行事にも出品します。



バンチョ貝
(写真提供 三重県)

漁業者にとっての男女共同参画

サラリーマンとはちがうけど

香良洲ではアサリの採貝が主ですが、私の家では釣りのエサを専門に扱っています。夫が海へ行って採って、私が中卸しの仕事をして。サラリーマンの家とは違うけど、これが漁師の家の男女共同参画だと思っています。でも、漁業の男女共同参画はまだまだ。4年前「海へ行く人だけが組合員」と規約が改正され、今、女性の組合員は数人だけです。

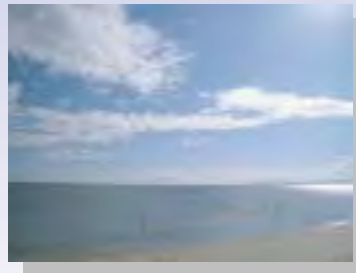
県の男女共同参画事業にもチャレンジ

2004年、三重県男女共同参画推進連携会議（アイリスネットワーク）の委員となり、2年間活動しました。芸濃町や阿児アリーナで、男女共同参画のセミナーも開催しました。

海と漁業と女性部の未来

海がよみがえらなければ

農業も漁業も先行きが不透明、後継者不足ですが、漁業は特に深刻です。環境破壊と乱獲で海に産物がなくなっているのです。農業のように育てる漁業（養殖）もありますが、海がよみがえらなければそれもままなりません。農業なら、家族経営から会社組織に転換したら、なんとかなるのではとも思います。漁業は5年先も、考えたら怖い状況です。



女性部も高齢化

今、香良洲漁協女性部は30名。漁師の家の女性でも加入していない人が多く、津市内の漁協では女性部自体がないところもあります。若い人が頼みですが、部員もどんどん高齢化が進んでいます。

香良洲の人脈がわたしの宝

毎日海岸をまわって

部長になってから、いろいろな事業やイベントを立ち上げ、7年間頑張ってきました。私が、好奇心旺盛で、未知の世界に興味のある性格だったからでしょう。

けれども、これらが成功してきたのは、根っこで支えてくれた部員や組合の皆さんの協力があったからこそだと思います。県内やよその県の人とも多く交流ができましたが、潮干狩りの時期に、管理業務として毎日海岸をまわって知り合えた、香良洲の町の人々—香良洲の町の人脈が私の宝です。



男性の子育て参画

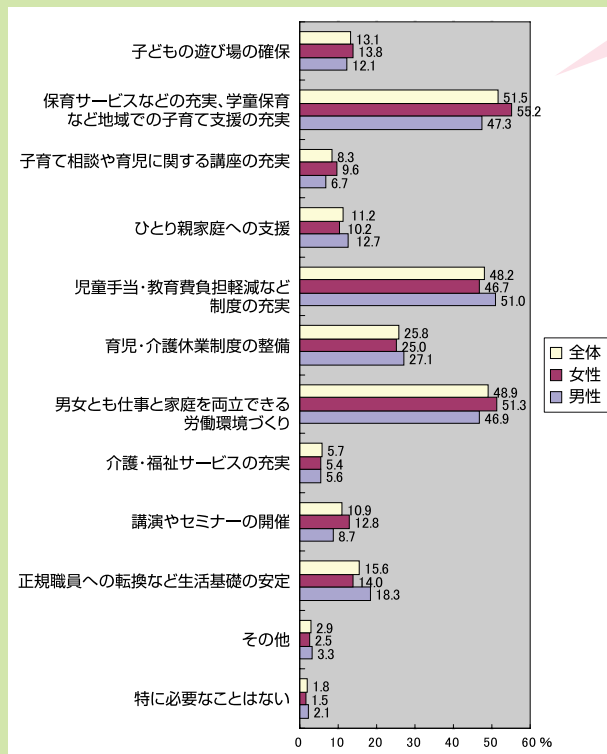


— 津市「男女共同参画に関する市民意識調査《報告書》」に見る④ —

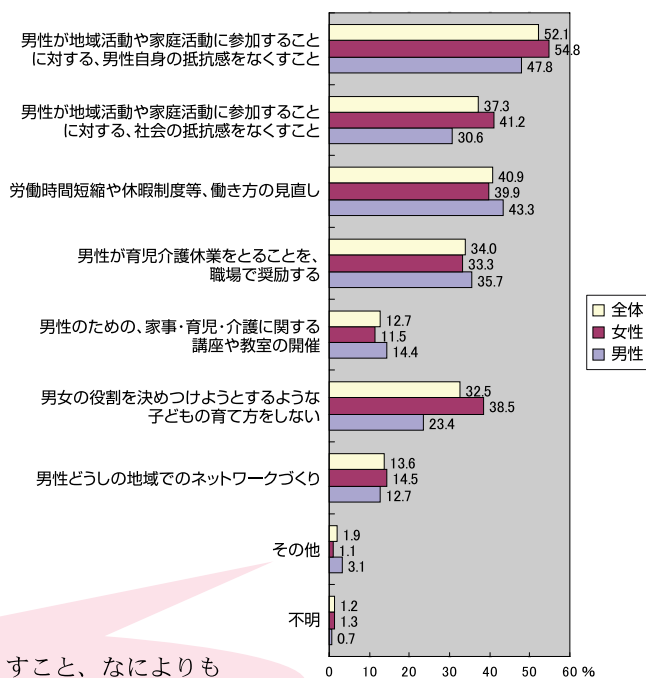
津市の男女共同参画アンケートから、今号は男性の家庭・地域活動、特に子育て参画を見てみます。男性の育児休業取得率は2007年でも1.56%（全国）となかなか進みません。男性が子育てしやすい社会を築くため、私たちはどのような取組をしたらよいのか、データから読み取ってみましょう。

安心して子どもを産み育てることができる社会の実現のために、あなたはどのようなことが特に必要だと思いますか。

子育てには、金銭的支援と同じくらい、地域での保育サービス、男女とも仕事と家庭を両立できる労働環境づくりが求められていることがわかります。



男性の地域活動や家庭活動への参画を進めるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。



制度とその運用はもとより、社会の抵抗感をなくすこと、なによりも男性自身の抵抗感をなくすことが大切と、男性自身も考えています。

『三重の女性史』が完成

このほど『三重の女性史』がフレンテみえから刊行されました。の中には、井出ひろのほか、堀川恵つ、佐々木かよ、近江絹糸人権争議など、津市の女性や出来事も多く掲載されています。お近くの図書館などでご覧いただけます。

(※この項、敬称略)

研究論文をまとめた。ひろのテーマは「男女・人種による末梢神経の発育比較」。一九三〇（昭和5）年、オランダで開催された万国解剖学会出席後、帰国。翌年、論文が東北大学教授会を通過、医学博士の称号を受けた。日本で女性としては医学博士で二番目の年、欽一も学位認定を受け、日本初の博士夫妻となった。

その後、日本での開業資金を稼ぐため再度渡米。三年後ようやく東京小石川に念願の産院を開業。家族そろっての暮らしが実現し、日本女医会評議員等でも活躍を始める。しかし忍び寄る戦火に一九四四（昭和19）年、一家は長野県北佐久郡岩村田町に疎開、小石川の病院は空襲で焼失する。

戦後は、そのまま長野県に留まり、夫らと新病院を開院する。その傍ら一九四七（昭和22）年には北佐久郡連合婦人会会長となり、県下町村に先駆けて岩村田町に**母親学校**を開設。また県の「婦人のための政治啓発講演ならびに研究討議会」では「婦人と選挙」と題して意見発表も行った。（この時、市川房枝が講師として参加している。）そして一九五六（昭和31）年には**県教育委員に女性で唯一任命**され、三年間職務を遂行した。晩年は東京武蔵野に戻り、一九九〇年（平成2）年、永眠。九十三歳であった。

父親を楽しもう!!

子育てに興味をもったきっかけ



私は、幼稚園児の父親です。日々、育児を楽しむように心がけています。私の育児について、ご紹介します。



きっかけは、絵本の読み聞かせでした。
「パパS' 絵本プロジェクト」というパパたちの読み聞かせの講演会を聞きに行って、パパたちが楽しそうに読み聞かせをしているところを見て自分もやってみようと思ったのがきっかけです。

家ではこんなこと やっています

子供が寝る前に、絵本の読み聞かせをします。毎晩できませんが、ほぼ毎日2~3冊読みます。
あと、妻が、仕事のときは食事の準備をします。おいしくない子供にダメ出しをされてしまいます(*_*)



パパ友達と

三重県男女共同参画センター フレンテみえ主催の講座で知り合ったパパ達と、去年のイベントで「パパカフェ」をオープンしました。手作りお菓子を作り、コーヒーをいれて、参加者におもてなしをしました。
これからも、父親ネットワークの「遊び」を楽しみたいです。

こんなことから 始めてみましょう

絵本でも音楽でも、パパの得意な分野で、子供とコミュニケーションをとってはどうか。
無理せず、楽しんで出来ることから始めてみるのがおすすめです。
家族サービスの、奉仕活動の意識では面白くありません。
子育ては、期間限定のプレミアムチケットです。「子育てを楽しみましょう」(^_^)

津市が生んだ

日本で女性二番目の医学博士

井出ひろ



井出ひろ（旧姓 真柄）は、一八九六（明治29）年、一志郡川口村（今の津市白山町川口）生まれ。豊橋市立高等女学校を経て東京女子医学専門学校に入学する。九歳での父の早逝や姉たちの結婚の失敗が、ひろに、**女性も一人の人間として自立した生き方をすることを志向させ、医師という専門職を選択させた。**

一九一九（大正8）年医師試験合格後は、母校附属病院に勤務。程なく先輩の竹内茂代（東京女子医専卒の女医第一号で、戦後初の女性代議士三千九人のうちの一人）から、弟・井出欽一との結婚を勧められる。この時の茂代からの**結婚の条件は「結婚後も研究を続けること」**だった。

結婚しても夫妻はそれぞれの病院に住み込み勤務で、開業どころか家もない。これを打破するため、まず欽一が渡米。次いでひろも、出産間もない息子・米夫を茂代に預け、後を追った。ワシントン州医師開業試験合格後、シアトルで、欽一は外科、ひろは産婦人科医として医院を開業した。医院といってもホテルの一室だったが、**英語に不自由で現地の病院には掛かりづらい日系人たちには好評で繁盛したという。**

五年後、二人はペンシルバニア大学ウィスター研究所で研究生活に入り、それぞれ

今回は安濃図書館。安濃町東観音寺のサンヒルズ安濃内にあります。女性問題など昔からの本でも、本棚を眺めて手に取って読めるのが魅力です。



【女は元気！】

市川喜男・著 1994年 講談社



「女性もよく勉強している～（省略）もう勉強はいいから後は実践あるのみよ」という言葉が印象的で、女性の立場を主張するだけでなく男性の立場を理解して共に参画して人生を楽しんでいる、そんな北九州の女性16人を紹介しています。

【パパカ、はじめよう！】

歌代幸子・著 2008年 オレンジページ



子育てで生き方を変えた8人の男性を紹介しています。自ら子育てに関わった人、仕方なく子育てに関わっている人などが、少し考え方を変えてみることで、人生を変えることができるということを教えてくれます。

【「私」をなくす母親たち】

石川結貴・著 2000年 本の時遊社



「母親」である前に、一人の女性であり、一人の人間である。周りの人間関係によって自分を失い、「母親」として間違ってしまう事がある。誰にでも起こりそうな事例をいくつか挙げて話してくれています。ついうなずいてしまう自分を見直す機会になりそうです。

【地域リーダーカ】

荒金雅子・川端美智子・森野和子・著 2006年 パド・ウィメンズ・オフィス



地域において女性のリーダーは必要です。自然には出てこないから後押しする仕組みが不可欠です。この本はジェンダーにとらわれない姿勢や、学びを行動に変えていくワークショップのあり方などを教えてくれます。

●市内在住・在勤・在学の方は、どなたでも借りられます。 ●紹介の本は、市内の他の図書館でも、所蔵していることがあります。 ●お近くの図書館に本がない時でも、取り寄せてもらって借りる方法があります。 ●詳しくは、津市図書館ホームページ (<http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/>) または、図書館の受付窓口にお尋ねください。

読者の窓

♪「つばさ」いいですね！もっと沢山のの人に読んで頂けるように閲覧板で回すことは出来ないのでしょうか？もったいないですよ。

(40代 女性)

♪まちを元気にする男女たち、とても良く出来ていると思います。取材先が自分と同じ20代後半・30代前半の同じ世代であれば、若い方が読んでくれると思います。

(20代 女性)

第8号のご感想・ご意見をお寄せ下さい。お子さんとのお出かけに便利！トイレマップを差し上げます。(宛先：下記まで)

編集後記

シロモチくん、今年もフォーラム参加ありがとう。絵に描いたモチが実現して動き出す象徴として、私はあなたのこと結構好きです。(まだヨチヨチ歩きだけだね(^.^)。)女性史はじめ津のいろいろな歴史の話を、今度あなたと話してみたいです。(さ)

初めて携わった、ぶらりライブラリー、本選びの難しさを感じながら、2人で選びました。これからも、楽しく読んでいただける、つばさ情報紙を作成していきたいです。(こ)・(た)

男性の子育て参画！！
男性は子育て参加の抵抗感を無くすことが、大事なようです。第一歩を踏み出してみましよう!(^)! (い)